

番号	7	平成28年度公共事業事後評価調書			担当課名[農地整備課]	
事業名	畑地帯総合整備事業（担い手育成型）			事業主体	静岡県	
箇所名	まきのほら まきがわ 牧之原菊川			市町名	菊川市	
事業概要						
受益面積	754.6ha	採択年度	平成9年度	完了年度	当初	平成22年度
					実績	平成22年度
事業費	前回	7,392百万円（H19計画変更時）	実績	6,968百万円		
事業量	畑地かんがい 面積680ha（支線用水路21,628m、用水機場36箇所） 農道 延長16,890m（幹線 幅員7.0m 2,978m、支線 幅員4.5m 13,912m）					
事業の目的・必要性						
<p>本地区は日本一の茶の集団栽培地である牧之原台地の西部に位置し、明治時代初期から茶の栽培が行われてきたが、台地上に位置するため、かんがいや防除に必要な水の確保が困難であった。また、地区内には農道が整備されず、茶葉や資機材の搬入搬出に大きな労力を要していた。</p> <p>本事業では、畑地かんがい施設や農道を整備することにより上記のような状況を改善し、効率的で安定した農業生産を支援するとともに、本地域の茶生産の将来を担う担い手農家を育成し、農家の規模拡大を図る。</p>						
事業の効果等						
費用対効果分析結果	前回計画変更(H19)	B/C	1.07	総費用 288.11 億円 （事業費：185.59 億円 再整備費等：- 億円 関連事業費：102.52 億円）	総便益 308.78 億円 （農業生産向上効果：87.01 億円 農業経営向上効果：203.68 億円 生活環境整備効果：0.22 億円 地域資源保全・向上効果：17.87 億円）	基準年 平成19年
	事後	B/C	1.40	総費用 309.41 億円 （事業費：212.48 億円 再整備費等：45.75 億円 関連事業費：51.18 億円）	総便益 434.66 億円 （食料安定供給確保効果：274.47 億円 農業持続的発展効果：- 億円 農村振興効果：160.19 億円 多面的機能発揮効果：- 億円）	基準年 平成27年
<p>1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> 土地改良事業の費用対効果分析マニュアルの改正による評価期間や費用分析手法の変更に伴い、総費用・総便益額が増加した。 <p>2) 事業効果の発現状況</p> <p><食料の安定供給に関する効果></p> <ul style="list-style-type: none"> 畑地かんがい施設整備により、作物単収が増加した。 ※作物生産効果：（単収）茶 事業前391kg/10a→事業後435kg/10a 増44kg/10a 舗装を行道路路の路面状況が改善したことにより、砂塵の発生が防止され品質が向上した。 ※品質向上効果：（単価）茶 事業前208千円/t→事業後270千円/t 畑地かんがいの導入によりかん水や防除に係る作業が軽減され、営農に掛かる時間が節減した。 ※営農経費節減効果：（労働時間）事業前534時間/ha→事業後11時間/ha 減523時間/ha 農道整備により乗用型茶園管理機の導入が可能になり、摘採など営農に掛かる時間が節減した。 ※営農経費節減効果：（労働時間）事業前714時間/ha→事業後237時間/ha 減477時間/ha 農道整備により通作や農産物輸送に係る経費が削減した。 ※走行経費節減効果：（走行経費）事業前351,828千円→事業後143,655千円 減208,173千円 <p><農村の振興に関する効果></p> <ul style="list-style-type: none"> 農道整備により一般車両の移動時間が短縮した。 ※一般交通等経費節減効果：（走行経費）事業前775,596千円→事業後371,503千円 減404,093千円 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> 道路整備により都市と農村の交流の利便性が向上した。 						
事業により整備された施設の管理状況						
<p>畑かん施設：水源（大井川の取水口）からファームpondまでの施設を牧之原畑地総合整備土地改良区が管理し、ファームpondから末端施設までは各用水組合が適正に管理している。</p> <p>農道、排水路：菊川市が適正に管理している。</p> <p>地域活動：地区内では、三つの団体がふじのくに美農里プロジェクトを活用し、景観作物を植える等、農地、農業用施設等の地域資源の保全管理活動を実施している。</p>						

事業実施による環境の変化

- ・ 担い手農家への農地集積が進んだ。
事業前47.7ha (6.3%) →事業後68.6ha (9.1%) : 集積増加率35.6%
- ・ 畑地かんがい施設の整備により農業用水の安定供給が可能となり、かん水、防除、施肥等に利用され品質の向上、営農の省力化が図られている。
※全国茶品評会（深蒸し煎茶の部）において、菊川から出品されたお茶が3年連続入賞しており、平成26年度は農林水産大臣賞に次ぐ農林水産省生産局長賞に輝いている。
- ・ 農道整備は、農産物や農業資材運搬の省力化はもとより、大型（乗用）管理機の普及にも貢献している。（H18：419台→H26：601台）
- ・ 本事業の実施により、経営規模の拡大等担い手農家の育成に貢献している。
（3ha以上の経営農家数 H17：154戸→H27：186戸）
- ・ 菊川市は、長い歴史に培われた高い栽培技術により、静岡県内において茶栽培面積は8.8%だが、荒茶生産量は11.1%を占めている（H21）。また、菊川市は深蒸し茶発祥の地と言われており、その特徴は、深い緑色で香が高く、渋みが抑えられ甘みがあり、関東を中心に市場が広まっている。
- ・ 農道の整備により集落内及び集落間の交通の利便性が向上した。

社会経済情勢等の変化

(1) 地域社会の動向

- ・ 富士山静岡空港、東名高速道路及び国道473号バイパスとのアクセスも良好となったため、国内外の観光客や都市住民との交流が期待できる。空港ターミナル内の土産物売場では、菊川茶を国内外の観光客へPRし、日本国内及び世界に菊川茶を情報発信している。
- ・ 菊川市出身の漫画家「小山ゆう」さんがデザインした「ちゃこちゃん」を菊川茶のイメージキャラクターにし、各種イベントにおいて菊川茶をPRしている。

(2) 地域経済の動向

- ・ 本事業で整備されたかんがい施設により適時かんがい等が容易となり、お茶の安定的な生産と品質の向上が図られている。また、農道整備により農産物や営農資材の運搬等省力化が図られ、生産コストが縮減された。
- ・ 一方、近年緑茶の国内消費量の減少傾向が続いており、生産者の農業所得も低迷していることから、緑茶需要を喚起する菊川茶のブランド化とともに、更なる生産コストの縮減等が必要となっている。

対応方針（案）

(1) 評価結果

事業効果は発現しており、改善措置の必要はない。

- ・ 畑地かんがい施設、農道などの整備により、省力化、品質の向上、担い手の生育が進んでおり、「菊川茶」をブランドとして産地形成するまでに成長している。

(2) 今後の課題等

- ・ 茶価の低迷に伴い、産地の競争力強化に向けた更なる取組が必要である。茶園の集積、管理の共同化（茶園管理、共同摘採、乗用型茶園管理機の共同利用）等、経営のスケールメリットを活かせるよう「人・農地プラン」の活用等を通じ、連担化を伴った経営規模の拡大を図り、更なる生産コストの縮減を図っていく必要がある。

(3) 同種事業への反映等

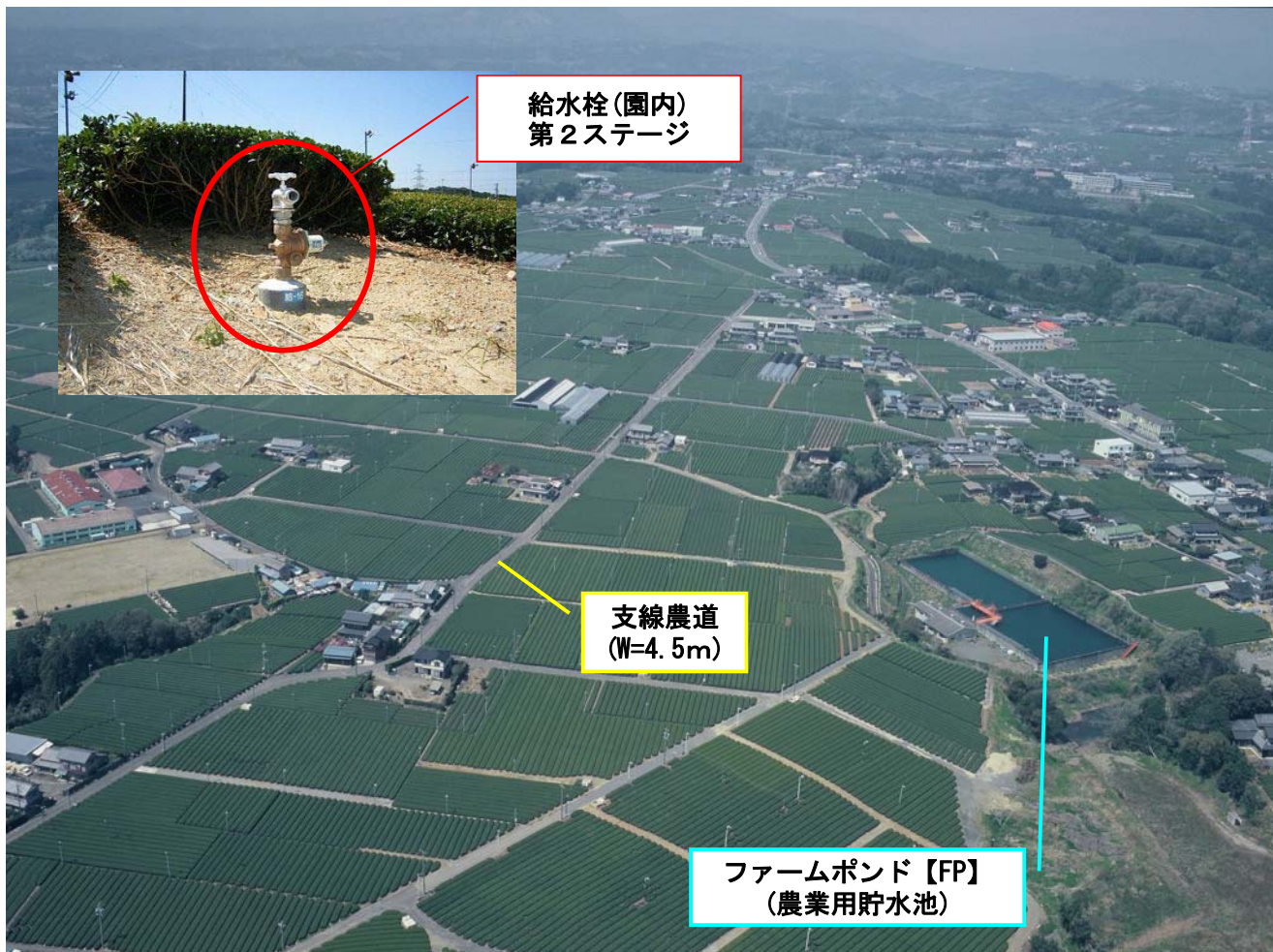
- ・ 本事業では、地域が求める営農形態に合わせて必要な整備を実施している。今後、同種工事においても、関係機関等を含めて営農方針について協議し、地域の特徴を踏まえつつ効率的な整備を推進していく。

畑地帯総合整備事業（担い手育成型）
牧之原菊川地区 位置図

S=1:50,000

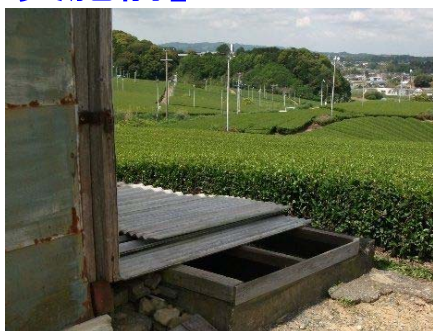


牧之原菊川地区



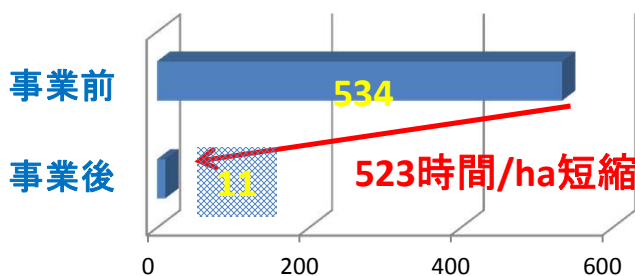
用水施設整備

【事業実施前】



農業用水を天水に依存

営農時間の短縮 (スプリンクラー)
かん水・防除に係る時間 (時間/ha)



【事業実施後】



F Pから用水供給



スプリンクラーによる散水

農道整備

【事業実施前】



軽トラックがやっと通れる



可搬型摘採機による作業（2人）

【事業実施後】

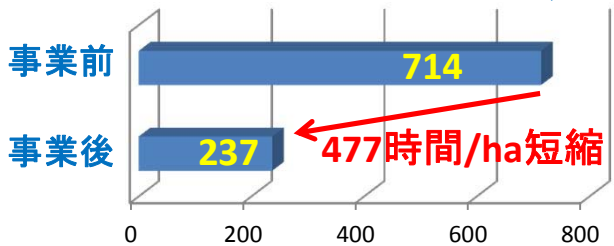


農道を利用しての乗用型茶園管理機を運搬

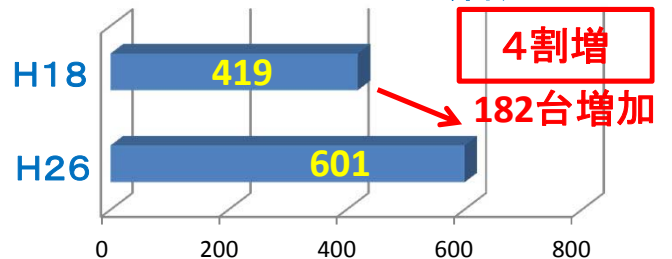


乗用型茶園管理機による作業（1人）

営農時間の短縮
乗用型茶園管理機導入による管理時間
(時間/ha)

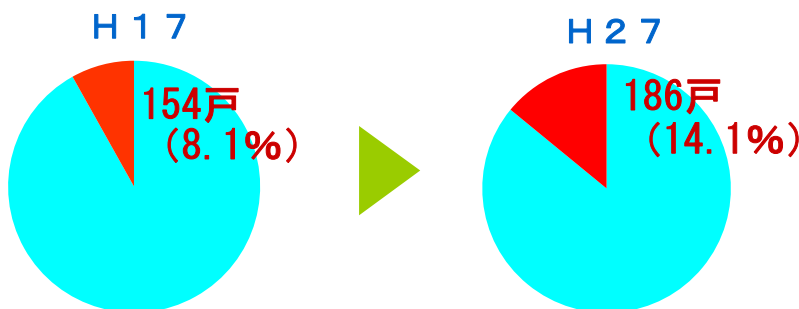


菊川市内における
乗用型茶園管理機導入数
(台)



農家経営規模

3.0ha以上の農家数が2割アップ（菊川市）



市のイメージキャラクター
「ちやこちゃん」

